

丹波市自治協議会のあり方懇話会の進め方について

1 懇話会の進め方

課題認識として、以下の点を確認しながら進めます。

- ・自治基本条例によって自治協議会が制度化となっているが、自治協議会はどのような役割や性質で自治会とは別に創設したのか。
- ・また、どのような活動を期待していたのか。
- ・制度創設時に描いていた自治協議会の姿と現在は異なっているのか。
- ・異なっているなら、制度創設時の姿にもっていくのか。それとも現状のままでよいのか。

自治協議会の現状を把握したうえで、あるべき自治協議会の姿をバックキャスティング※¹で考える必要があります。また、丹波市では都市構造のあり方を考えており、都市機能を中心部に集中させて、住むところは住み慣れたところで暮らすということから、今後、複合的な課題解決に向けての自治協議会のあり方も検討する必要があります。

懇話会では4つのテーマについて検討します。地域づくり事業を軸とした自治協議会の「組織運営」「活動内容」「拠点施設」「人・財源」をテーマに取り組みの推移と今後の課題解決に向けての方向性を見出します。地域づくり事業としての趣旨、課題を明確にすることで、誰もが共通認識し、発展できる自治協議会を目指します。

(1)「組織運営」について

自治会と自治協議会の関係性（役割分担）や、個人と自治協議会、自治協議会と他団体等の関係性を確認し、自治協議会について運営組織のタイプ※²を把握します。また、今後、進むべき方向性を協議することによって、概ね小学校区圏域での共助の活動（地域づくり事業）が推進することを目指します。

(2)「活動内容」について

活動内容については、それぞれの地域課題の解決をテーマに取り組んでいただいておりますが、地域課題が複合化しており「自助・共助・公助」の考え方から課題の整理をする必要があります。

また、自治協議会（概ね小学校区）で行われる「共助」の圏域活動について、事業の棚卸しを進め、行事型から課題解決型に転換することにより、自治会や自治協議会の取り組みがより良いものになること目指します。

(3)「拠点施設」について

地域の交流拠点となる自治会館等、拠点施設の円滑な維持管理は重要です。

自治協議会が活用する拠点施設も老朽化に伴う躯体・設備の修繕費用や光熱水費の負担等、維持管理にかかる課題が活動の妨げとなっている現状があります。

施設維持管理については、地域づくり交付金の中で、施設面積による経費積算や大規模改修等の補助金制度で対応していますが、地域づくり事業が円滑に行われるように支援内

容についても整理をしていきます。

(4) 「人・財源」等について

就労年齢の延長や個々の諸事情、役員が多忙さ等から自治会においてもその役職を担う人材選考には厳しい現状があります。参画の仕組みがありながら参画しにくい現状があることなどの解決に向けて協議します。また、自治協議会の担い手は、ボランティアでの活動となっていることや、地域活動の推進を中心となって取り組む地域コミュニティ活動推進員についても、様々な業務を抱えていることや賃金面等の課題もあり、その人材確保について苦慮されているところです。人づくりとしては、ファシリテーター※3的な存在となる人材確保も重要です。

地域の課題には、自治協議会だけでは対応できない複合的な課題が増えています。生活課題や福祉課題の解決を望む市民が多くなる中、地域資源（力）である事業所、福祉事業所、団体等と自治組織がつながることで、課題解決する仕組みが生まれ、新たな賑わいを生むことへの期待が自治協議会に必要と考えられます。

支える側の人の問題、安定的な組織運営をするために限りある財源と資源の有効活用について、必要な連携、支援について整理していきます。

【用語説明】

※1 バックキャスティング…未来を予測する際、目標となるような状態を想定し、そこを起点に現在を振り返って今何をすべきかを考える方法で、いわば未来からの発想法である。

※2 組織のタイプ…久教授による組織タイプを引用〔自治協議会と他団体との関係〕

- ・統合型：今までの団体を統合し、自治協議会に一本化→分野ごとに部会設置
- ・補完型：今までの団体が担わなかった新たな活動を協議会が担う
- ・支援型：他団体の活動を協議会が支援

※3 ファシリテーター…司会進行だけではなく、会議が建設的なものになるように働きかける役割を担う人物

2 全体スケジュール（案）

※【資料7】を参照ください。